

福島県土木部 ICT活用工事（土工 1,000m³ 未満）積算要領

1 適用範囲

本資料は、以下に示す土工量 1,000m³ 未満の ICTによる土工（以下、土工（ICT）（1,000m³ 未満））に適用する。

2 機械経費

(1) 機械経費

土工（ICT）（1,000m³）の積算で使用する ICT建設機械経費は、以下のとおりとする。

なお、損料については、最新の「建設機械等損料算定表」、土木工事標準積算基準書の「第2章 工事費の積算」①直接工事費により算出するものとする。

①土工 1,000m³ 未満（ICT）

ICT建設機械名	規格	機械経費	備考
バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型 (第3次基準値) 山積0.45m ³ (平積0.35m ³)	損料にて計上	ICT建設機械経費加算額は別途計上

(2) ICT建設機械経費加算額

○損料加算額

ICT建設機械経費損料加算額は、地上の基準局・管理局の賃貸費用とし、2(1)機械経費のうち損料にて計上する ICT建設機械に適用する。

なお、加算額は、以下のとおりとする。

1) 土工 1,000m³ 未満（ICT）

対象建設機械：バックホウ（ICT施工対応型）

損料加算額：5,470円/日

(3) その他

ICT機械経費等として、以下の各経費を共通仮設費の技術管理費に計上する。

1) 保守点検

ICT建設機械の保守点検に要する費用は、次式により計上するものとする。

土工 1,000m³ 未満（ICT）

$$\text{保守点検費} = \text{土木一般世話役(円)} \times 0.05(\text{人/日}) \times \frac{\text{施工数量(m}^3\text{)}}{\text{作業日当り標準作業量(m}^3\text{/日)}}$$

(注) 施工数量は、ICT施工の数量とする。

(注) 作業日当り標準作業量は下記による。

土質	施工方法	障害の有無	作業日当たり標準作業量
土砂	オープンカット	無し	250m ³ /日
		有り	150m ³ /日
	片切掘削	-	242m ³ /日
岩塊・玉石	オープンカット	無し	190m ³ /日
		有り	120m ³ /日

2) システム初期費

ICT施工用機器の賃貸業者が行う施工業者への取扱説明に要する費用、システムの初期費用等、貸出しに要する全ての費用は、以下のとおりとする。

土工 1,000m³ 未満（ICT）

対象建設機械：バックホウ
 費 用：ICT建設機械経費損料加算額に含む

- 3 3次元設計データの作成費用
 3次元設計データの作成を必要とする場合は、共通仮設費の技術管理費に計上するものとし、必要額を適正に積み上げるものとする。また、3次元起工測量を実施した場合は、3次元設計データの作成費用と同様に計上するものとする。
- 4 3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用
 原則、断面管理にて出来形管理を実施するため、標記経費は計上しない。ただし、受注者協議の上、面管理にて出来形管理を実施する場合は、必要額を適切に積み上げるものとする。
- 5 積算方法
 受注者からの提案・協議によりICT施工した場合は、
 (ICT建設機械使用割合100%)を用いて積算するものとする。

【参考】

1 施工歩掛

(1) 土量の表示

すべて地山土量で表示する。

(2) 土質区分

日当り施工量における土質は、次表のとおり区分する。

表1. 1 土質区分

土 質 名	分 類 土 質 名
レキ質土、砂利混り、レキ	レキ質土
砂	砂
砂質土、普通土、砂質ローム	砂質土
粘土、粘性土、シルト質ローム、砂質粘性土、粘土質ローム火山灰質粘性土、有機質土	粘性土
岩塊・玉石混り土、破碎岩	岩塊・玉石

1-1 オープンカット（バックホウ掘削）

(1) 日当り施工量

オープンカット（バックホウ掘削）の日当り施工量は、次表を基準とする。

表1. 2 オープンカット（バックホウ掘削）日当り施工量（1日当り）

作業の内容	名 称	土質名	規 格	単 位	数 量	
					障害なし	障害あり
オープンカット 1,000m ³ 未満	バックホウ (クローラ型) 運転	レキ土質・砂・ 砂質土・粘性土	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	m ³	169	83
		岩塊・玉石	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	m ³	129	64

1-2

(1) 日当り施工量

片切掘削の日当り施工量は、次表を基準とする。

表1. 3 片切掘削（人力併用機械掘削）日当り施工量（1日当り）

作業の内容	名称	土質名	規格	単位	数量
片切掘削 1,000m ³ 未満	バックホウ (クローラ型) 運転	レキ土質・砂・ 砂質土・粘性 土	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	m ³	164

(注) 本歩掛は掘削までとし、法面成型は含まない。

なお、法面整形は法面工（法面整形工）の機械による切土整形にて計上する。

(注) 上表にクレーン作業は含まない。

(2) 人力掘削歩掛

片切掘削（人力併用機械掘削）の人力掘削歩掛は、次表を基準とする。

表1. 4 片切掘削（人力併用機械掘削）の人力掘削歩掛（100m³ 当り）

名称	土質名	単位	数量
普通作業員	レキ土質・砂・砂質土・粘性土	人	3.9

(注) 本歩掛は掘削までとし、法面成型は含まない。

なお、法面整形は法面工（法面整形工）の機械による切土整形にて計上する。

2 単価表

(1) オープンカット（バックホウ掘削）100m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	適要
バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	日	100/D	表1.2
諸雑費		式	1	(まるめ)
計				

(2) 片切掘削（人力併用機械掘削） 100m³ 当り単価表

名称	規格	単位	数量	適要
普通作業員		人		表1.4
バックホウ (クローラ型) 運転	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	日	100/D	表1.3
諸雑費		式	1	(まるめ)
計				

(注) D：日当り施工量

(3) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クローラ型) (オープンカット)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	機一33	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ 48 機械損料数量→1.33
バックホウ (クローラ型) (片切掘削)	後方超小旋回型・超低騒音型 排出ガス対策型（第3次基準値） 山積0.45m ³ （平積0.35m ³ ）	機一33	運転労務数量→1.00 燃料消費量→ 48 機械損料数量→1.33

運転1日当り単価表

名 称	規 格	単 位	数 量	適 要
運 転 手 (特 殊)		人		
燃 料 費		ℓ		
機 械 損 料		供用日		
I C T 建 設 機 械 経 費 額 賃 料 加 算		〃		
諸 雑 費		式	1	
計				